藤城清治　略歴

1924　4 月 17 日東京に生まれる

1936　慶應普通部に入り、仙波均平氏に絵とエッチングを習う

1940　慶應義塾大学経済学部予科に進み、児童文化研究会とパレットクラブに入り、
絵と人形劇に熱中する

1941　独立美術協会展、国画会展、春陽会展、新構造展に入選

1942　猪熊弦一郎氏、脇田和氏に師事、新制作派展に入選
銀座菊屋ギャラリーで第 1 回個展を開く
在学中、フランス文学者の井汲清治教授に薫陶を受ける

1943　海軍予備学生として滋賀海軍航空隊に入り、翌年少尉になる
九十九里浜の沿岸防備につき、少年兵と人形劇を演じる

1945　終戦により大学に復学

1946　慶應義塾大学の講師で人形劇研究家の小沢愛圀氏によりアジアの
影絵芝居を知り感動する
教会の日曜学校で学生達と影絵劇を始める

1947　慶應義塾大学経済学部を卒業
東京興行（現 テアトル東京）宣伝部に入社
テアトル銀座と銀座全線座を担当し映画パンフレットを製作
会社勤めの傍ら、セミプロ劇団『人形と影絵の劇場ジュヌ・パントル』を結成

1948　花森安治氏に認められ「暮しの手帖」に影絵の連載を始める

1949　銀座資生堂画廊で油絵の個展を開く

1950　銀座交詢社ホールで人形劇『雪の女王』を芥川也寸志作曲で上演
最初の影絵絵本『ぶどう酒びんのふしぎな旅』を出版

1951　影絵絵本『浦島太郎』（文・中谷宇吉郎）を出版しベストセラーになる
銀座交詢社ホール 影絵劇『せむしの子馬』を伊福部昭作曲で上演

1952　ＮＨＫ ＴＶの試験放送が始まりＮＨＫの専属になる
『人形と影絵の劇場ジュヌ・パントル』を『木馬座』に改名する
銀座交詢社ビルのビヤホール「ピルゼン」に影絵壁画を制作

1953　朝日新聞に毎日曜日、影絵を約 5 年間連載
ＮＨＫ ＴＶ本放送開始で引続き 1 年間専属になる

1954　"児童文化誌『絵本木馬』を創刊、14 号まで続ける"
"影絵劇『泣いた赤鬼』が東京都児童演劇コンクール奨励賞を受賞 "

1956　影絵劇『銀河鉄道の夜』を初演し、日本ユネスコ協会連盟賞と
国際演劇祭参加読売児童演劇祭 奨励賞を受賞
影絵絵本『トンチキプー』（文・北畠八穂）を出版

1957　ＴＢＳ ＴＶで『影絵名作アルバム』を生放送、評判を呼ぶ

1958　「中央公論」に『西遊記』（文・邱永漢）を５年４ カ月間連載する
1960　影絵画集『影絵』を出版
1961　等身大ぬいぐるみ人形劇を創り、木馬座の公演活動を全国的に行う
1965　ぬいぐるみ人形劇『ヘンゼルとグレーテル』（三越劇場）に、当時学習院
幼稚園児でいらした天皇殿下 浩宮様がご観劇される
1966　ＴＶ番組『木馬座アワー』を自主提供する
「ケロヨン」が爆発的人気を呼ぶ
1967　国立劇場で初の児童劇としてぬいぐるみ人形劇『ピーターパン』を上演
映画『ケロヨンのぼうけん』劇場公開
1968　映画『ケロヨンの大自動車レース』劇場公開
1970　大阪万博に『ケロヨンショー』で参加
1971　武道館『こどもの日ケロヨンフェスティバル』に観客が殺到、大混乱になり
新聞等マスコミに「木馬座、ついに馬脚をあらわす」と批評される
1972　木馬座解散、再びジュヌ・パントルになり、影絵を主体に活動する
テレビ東京の『影絵の天気予報』を制作、評判を呼ぶ
1973　伊勢丹新宿本店「大影絵展」を開催
1974　「暮しの手帖」にカラー影絵の連載を始める
影絵絵本『お母さんが読んで聞かせるお話』を出版
1976　日本橋高島屋「影絵展」を開催
1977　藤城清治 影絵画集』を出版
『藤城清治オリジナルカレンダー』の自主制作を始める
1978　影絵絵本『天の笛』（文・斉藤隆介）を出版
影絵絵本『旅のらくだ』を出版
花森安治氏逝去。花森氏のあと「暮しの手帖」の表紙を描く
1979　"大阪ロイヤルホテルで影絵原画展を開催し、以後 17 年間毎年開催"
1980　影絵画集『遠い日の風景から』『ヨーロッパの森の中で』を講談社から出版
影絵劇『シャクンタラー姫』が厚生省児童福祉文化奨励賞を受賞
1981　影絵画集『イエス』を出版
1982　国際交流基金派遣でエジプト・ヨルダン・アラブ等中東諸国を巡演
影絵劇『銀河鉄道の夜』が文化庁芸術祭優秀賞を受賞
影絵絵本『銀河鉄道の夜』（原作・宮沢賢治）を出版
銀座ミキモトホールで影絵展を開催
1983　影絵絵本『銀河鉄道の夜』がチェコスロバキアの国際絵本原画展ＢＩＢで
金のリンゴ賞を受賞

1986　カナダのチルドレン・フェスティバルとエキスポで影絵劇を上演
サンフランシスコで影絵ミュージカル『無限』を上演
『藤城清治 影絵の世界 その歴史と創造』を出版
1987　ニューヨーク 日本クラブで影絵展を開催
ニューヨーク・アジア・ソサエティで影絵劇『人魚姫』を上演
香港アートフェスティバルで影絵劇『つるの恩がえし』を上演
1989　紫綬褒章を受賞
仙台鐘崎笹かま館に影絵壁画『海の幻想』（横 15m）を制作
1990　長崎博で影絵劇『幻想列車』を上演
1991　チェコスロバキア プラハで影絵展を開催
オペラ『夕日の耳』の影絵美術を担当、ドイツ・スイスを巡演
北九州博で影絵劇『愛・よみがえる地球』を上演
1992　影絵画集『天地創造』を出版
山梨昇仙峡に影絵美術館を開設
1993　"信州博で影絵劇を３ヶ月上演し'93 エキスポ大賞を受賞"
1994　静岡県川根本町のフォーレなかかわね茶茗館に影絵壁画を制作
1995　勲四等旭日小綬章を受章
1996　長野県白樺湖に影絵美術館を開設
1997　影絵絵本『ウィー・アー・ザ・ワールド物語』を出版
長野県ＪＲ上田駅ロビーに影絵壁画『流響』を制作
鳥取夢みなと博で影絵劇を上演'97 エキスポ地球振興賞を受賞
1998　北海道生田原町に影絵美術館を開設
"世界最大の影絵壁画『光彩陸離』（横 18m）を制作"
1999　名古屋市老人保健施設「あんず」に影絵壁画『生命讃歌』を制作
大坂大丸心斎橋店で影絵展を開催
日本橋三越で影絵展を開催
日本児童文芸家協会から児童文化特別功労賞を受賞
2000　銀座伊東屋、福島県喜多方市美術館で影絵展を開催
影絵劇『ラーマーヤナ』を東京芸術劇場で上演し、秋篠宮皇嗣妃殿下紀子様
がご観劇される
上皇后陛下 美智子様より吹上御所へお招きいただき、影絵についてご進講する
『光と影の詩人 藤城清治の世界』を出版
2001　愛子内親王殿下ご誕生記念作品『夢がとぶ』を制作
"日本橋三越で影絵展を開催し皇后殿下 雅子様、紀宮清子内親王殿下、
秋篠宮皇嗣妃殿下 紀子様、高円宮妃殿下 久子様、典子女王がご鑑賞される
北九州博で影絵劇を４ヶ月上演、ジャパン・エキスポ大賞を受賞

2002　影絵劇「動く影絵のファンタジー」が大阪・名古屋・飯田・新潟・札幌・
盛岡・仙台・甲府を巡演し話題を呼ぶ
銀座教文館で影絵展を開催し皇后殿下 雅子様と愛子内親王殿下がご鑑賞される
長崎ハウステンボス美術館、池袋サンシャインシティで影絵展を開催
2003　銀座伊東屋で影絵展を開催
銀座教文館で影絵展を開催し、上皇后陛下 美智子様がご鑑賞される
半世紀の集大成『藤城清治作品集 愛を謳う光と影』を美術出版社から出版
2004　イタリア（アッシジ）へ聖フランシスコの取材に行く
『銀座いろはかるた』を制作
カルピス本社 新館ロビーに影絵壁画『愛の泉』を制作
東京都写真美術館で「傘寿 80 才 記念藤城清治の世界展」を開催、
２ヶ月で来場者 6 万人超え
"富山県チューリップ四季彩館、銀座教文館、愛知県高浜市かわら美術館、
福岡県北九州市美術館で影絵展を開催"
ニューヨーク・日本クラブで影絵展を開催
2005　アメリカ（ワシントン）の日本文化センターで影絵展を開催
山形県酒田市立美術館、西宮市大谷記念美術館、香川県高松市美術館で
影絵展を開催
韓国のロッテ百貨店名品館ギャラリーで影絵展を開催
名古屋市の介護老人施設かなやまに影絵壁画『こびとの楽園』を制作
2006　岡山県立美術館、鳥取県米子市美術館、銀座教文館、銀座ミキモトホールで
影絵展を開催
秋篠宮皇嗣妃殿下紀子様第三子 悠仁親王殿下ご誕生記念作品『夢生まれる』
を制作
ヨーロッパを写生旅行し『ノイシュヴァンシュタイン城』の影絵を制作
2007　学校法人岩崎学園 東戸塚新築校舎正面に陶板壁画『日輪』『四季のよろこび』、
同学園の玄関ロビーに影絵原画『ともしび』を制作
そごう美術館 、新潟県立近代美術館、銀座教文館、銀座山野楽器 で
影絵展を開催
2008　慶應義塾幼稚舎に影絵壁画「光陰の中の巣立つ仔馬たち」を制作
天王洲 銀河劇場で創作活動 65 周年記念「動く影絵のファンタジー」を上演
愛媛県美術館「藤城清治 光と影の世界展」を開催
島根県立美術館「藤城清治 光と影のファンタジー」を開催
銀座教文館で影絵展を開催
『創作活動 65 周年記念作品集 愛蔵本［希望］』『創作活動 65 周年記念作品
豪華本［愛］』を美術出版社から出版

2009　ヤマハ株式会社に影絵壁画『リーフがそよぐシンフォニー』を制作し、
銀座ヤマハビルに飾る
郡山市立美術館「光と影のシンフォニー 藤城清治展」を開催
長崎県美術館「藤城清治 光の祈り」を開催
京都文化博物館 「藤城清治 光と影の世界展」を開催
2010　最初の影絵絵本『ぶどう酒びんのふしぎな旅』をカラーで 60 年振りに
再制作し出版
高知県立美術館「藤城清治の世界展」を開催
金沢 21 世紀美術館「藤城清治 光と影のファンタジー」を開催
鹿児島黎明館「光と影のファンタジー 藤城清治の世界展」を開催
福井市美術館「藤城清治 光と影の世界展」を開催
銀座教文館で影絵展を開催
自宅にて「藤城清治 自宅スタジオ展」を開催し、来場者 3 万 9 千人を超える
2011　影絵絵本『マボロシの鳥』(原作・爆笑問題 太田光）を出版
新潟県立万代島美術館「藤城清治 光のシンフォニー」を開催
秋田県立近代美術館「光と影のファンタジー 藤城清治の世界展」を開催
銀座教文館で影絵展を開催 十周年を迎える
ヤマハ銀座スタジオ「藤城清治 光のシンフォニー展」を開催
名古屋市の介護老人施設トリトンに影絵壁画『生きるよろこび』を制作
2012　熊本県立美術館「藤城清治の世界展 光と影のファンタジー 」を開催
奈良県立美術館「光と影のファンタジー 藤城清治の世界展」を開催
影絵絵本『セロ弾きのゴーシュ』(原作・宮沢賢治）を講談社から出版
銀座教文館で影絵展を開催
2013　栃木県那須に初の藤城清治美術館オープン
銀座教文館で影絵展を開催
ヤマハ銀座スタジオ「藤城清治 光のシンフォニー」を開催
第 36 回巌谷小波文芸賞を受賞
宮崎県立美術館「藤城清治 光と影のファンタジー」を開催
秋田県立近代美術館「光のシンフォニー 藤城清治の世界展」を開催
花巻市博物館「藤城清治 光と影のファンタジー」を開催
大阪文化館・天保山「藤城清治 ファンタジー展 光の贈り物」を開催
影絵画集『光の祈り』を白泉社から出版
2014　影絵絵本『風の又三郎』(原作・宮沢賢治)を講談社から出版
第 24 回宮沢賢治賞を受賞
福岡市博物館「卒寿記念 藤城清治 光と影の世界展」を開催
明治神宮より依頼を受け、昭憲皇太后百年祭記念 夜の特別参拝のために

横 6m の影絵壁画『明治神宮 昭憲皇太后』を制作
"銀座教文館「藤城清治 卆寿記念展」を開催"
日本テレビ「24 時間テレビ 愛は地球を救う」に出演し、
日本武道館にて横 6m　　の影絵壁画『小さな奇跡大きな奇跡 愛は地球を救う』
の制作を生中継する
大阪文化館・天保山「光と影の芸術人 藤城清治の世界展」を開催
この年 3 枚目となる横 6 m の影絵壁画『日本一大阪人パノラマ』を制作
腰部脊柱管狭窄症の手術をするが復帰する
札幌芸術の森美術館「光と影のファンタジー 藤城清治の世界展」を開催
2015　長崎県美術館「藤城清治 聖なる光」を開催
福岡市博物館「宮沢賢治賞受賞記念 藤城清治展 愛の贈りもの」を開催
銀座教文館「藤城清治展 幸せをよぶ光」を開催
「藤城清治の旅する影絵 日本」を講談社より出版
2016　21 年の歳月をかけて制作した『アッシジの聖フランシスコ』を
女子パウロ会から出版
奈良県立美術館「藤城清治 光のメルヘン展」を開催
銀座教文館「藤城清治展 光と影は幸せをよぶ」を開催
富山県立近代美術館「藤城清治 光よろこびメルヘン展」を開催
「ブーちゃん」を講談社より出版
2017　大阪文化館・天保山「藤城清治 光の楽園展」を開催
新潟市新津美術館「藤城清治 光のメルヘン展」を開催
腰部脊柱管狭窄症の再手術をしボルトを 6 本いれる
銀座教文館「藤城清治 光と影の楽園展」を開催
影絵絵本『藤城清治 影絵の絵本 グリム』を講談社から出版
東京 洗足駅に、筋力をつけるためリハビリウォーキングの
休憩の場としてラ・ビーカフェをオープン
2018　熊本県立美術館「藤城清治 光と影のメルヘン展」を開催
銀座教文館「藤城清治 光と影の生きる喜び展」を開催
影絵絵本『藤城清治 影絵の絵本 アンデルセン』を講談社から出版
2019　宮崎県立美術館「藤城清治 愛 生きる メルヘン展」を開催
宮崎空港ターミナルビルにて日本神話を描いた日本最大となる
全長 21m のステンドグラスが完成
秋田県立美術館「藤城清治 こびとと生きる喜び展」を開催
銀座教文館「光と影で愛を永遠に展」を開催

2020　銀座教文館「光と影の生きるよろこび展」を開催
韓国「藤城清治〈光と影のファンタジー展〉」を開催
銀座教文館「こびとといっしょ 生きるよろこび展」を開催
2021　福井市美術館「藤城清治 光の世界メルヘン展」を開催
2022　東武宇都宮百貨店にて版画展「生きる喜び 心に 花束を」を開催
2023　東武宇都宮百貨店にて版画展「生きるよろこび 愛と平和を」を開催
2024　韓国 SEJONG 美術館「影絵巨匠藤城清治　生誕１００周年記念
光と影のファンタジーOSAKA PANORAMA」展を開催
福岡市博物館にて「藤城清治 100 歳 美しい地球 生きるよろこび 未来へ」
を開催
東武宇都宮百貨店にて版画展「100 歳 生きるよろこび 愛と平和を」
鹿児島山形屋にて版画展「100 歳 藤城清治 今、生きている喜び　版画展」
を開催
2025　大丸福岡天神にて版画展「今、生きている喜びを貴方と共に」を開催
新潟日報メディアシップにて「藤城清治よろこび叶う影絵と版画展」を開催
東武宇都宮百貨店にて版画展「夏を愛して、秋の風に喜びを」を開催
グランフロント大阪にて「藤城清治 101 歳展 生きている喜びをともに」を開催